

◆田の耕し方（トラクター）

【田を耕すことの意味とは？】

主に次の意味があります。

- ①固くなった土を掘り起こし、柔らかくすること。
- ②有機物を分解する微生物や小動物が働きやすい環境を整えること。
 - ・生えた雑草を鋤き込むこと。
 - ・堆肥や落ち葉や肥料を土と混ぜてやること。

【年に何回耕耘するのか？】

水田の場合、多い人では6～7回する人もいれば、少ない人では1回しか耕耘しない人もいます。多い人は草を生えにくくする為だったり、少ない人は燃料代を抑える為だったりします。人さまざまです。

ただ、耕耘回数に比例して収穫量が増えることはありません。

私の故郷では、年3回ぐらいが多いようです。

- 稲刈り後から年内に荒鋤1回、
- 田植の3～4週間前に代鋤を1回、
- 田植7日前に代鋤仕上げを1回です。

【耕耘の深さ】

秋の田起こしの深耕は、15cm以上にして根域を広げておきます。

確かに深い方が土は確かによく混ざりますが、ロータリー爪の消耗も早まるし燃料や時間もかかるので、ほどほどに。

特に稲刈り後は土も硬いので馬力も多く必要になります。

【圃場の状態】

荒鋤は、出来るだけ圃場が乾いている時にするようにして、空気を含ませて耕耘します。雨降り後の水気の多い時や、真冬で土が凍っているような時は避けるようにします。

【耕耘の順序と手順】

圃場が真四角ならいいですが、そうでないところは万遍なく耕せるように予めシミュレーションしておきます。

外周 2 周分を最後に耕耘することを頭に入れ、内側から直線の折り返しで耕耘していきます。トラクターの速度は、1.5km/h 前後が目安です。

① 先ず、入り口から対角線上の奥（反対側の隅っこ）まで移動します。

② 圃場の端からロータリー幅 2 台ほど開けて真っ直ぐに耕耘していきます。

※ エンジン回転数を 2000 回転くらいにしてスタートします。

③ 行き止まりまで（2 台ほど開けて）行ったら、ロータリーを上げて旋回します。

④ 旋回できたら、また端から 2 台ほど開けて、ロータリーを下ろして耕耘を始めます。あとは同じ様に外周分だけ残して、ひたすら折り返します。

※ 正面の突き当り（圃場の 1 辺）が真っ直ぐでなく斜めになっている（変形の圃場の）場合は、旋回前に一旦逆ハンドルでちょっとバックしてから一気に旋回するなど工夫して、旋回後にロータリーが定位置にスムーズにくるようにします。

⑤ 入り口付近まで繰り返し、次に 2 台ほど開けた外周を外側から左回りに耕耘していきます。2 周分耕耘します。（この時、トラクターのターンの跡も消していきます。）

⑥ ひと通り耕耘できたら、位置口まで戻って完了です。

※ 途中、万一小石などが絡まる時はすぐに取り除いておきます。（この時、ロータリーの回転は危険なので止めます。）

※ 土が乾いてから 2 回目を耕耘する（更に均一にしたい）場合（切り返し）は、逆方向から始めます。2 回目の耕耘スピードは、2km/h 前後と少し早くします。

【代掻き】

<田植の3週間ほど前>

圃場に水を溜めてから数日後に水が引き始めてから、1回目の代掻き（荒代）をします。

（水が多すぎると昨年の稲わらが浮くことがあります。）

トラクターのスピードは、2km/h 前後が目安です。

<田植の7日ほど前>

その後、更に水が引き、圃場の土が見える状態になったら、

2回目の仕上げ代掻き（本代＝ほんじろ、植代＝うえじろ）をします。

トラクターの速度は、2.5km/h が目安です。

- ※ 雨天の仕上げ代掻きは、水が多い状態になり易いので稲わらの浮く可能性が高くなります。
- ※ 晴天過ぎる時は、水の補給が必要な場合（ワダチができない程度に）もあります。
- ※ 稲作はご飯になるまで水加減がポイントです。
- ※ 仕上げ代掻き後は、田植えを始めるまで圃場面が乾かないように常に表面まで水を溜めておきます。
ただし、代掻き直後に水を出し始めてしまうと折角の代掻きが台無しになることもあるので、比較的軟らかい圃場の場合などは、少し時間を置いてから水を補給するようにします。
また、風により圃場の水がにごり波立つような場合は、稲わらが浮いてしまうこともあります。
常に水加減には細心の注意が必要です。